

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

16 Steps



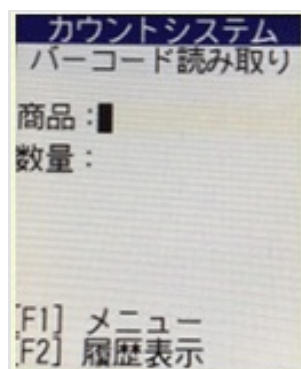
ハンディターミナル簡易照合プログラムを使ったバーコードの読み取りと、CSV出力の手順をご説明します。

1 電源を入れます



ロゴ画面が表示されたらボタン（どのボタンでもOK）を押します。

2 「ENT」ボタンを押します。

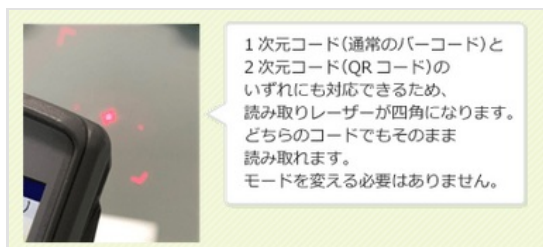


バーコード読み取り画面が表示されます。

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

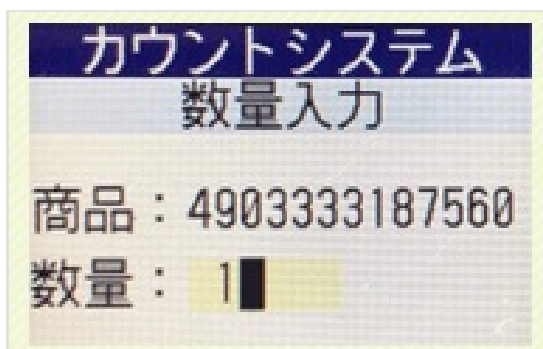
16 Steps

3 「R」ボタンを押すとバーコード読み取りモードになります



読み取りを行わないまま25秒経過すると、エラー音が鳴り、読み取りモードが解除されます。その場合は、もう1度「R」ボタンを押してください。

4 1次元コードを読み取るとこのようになります

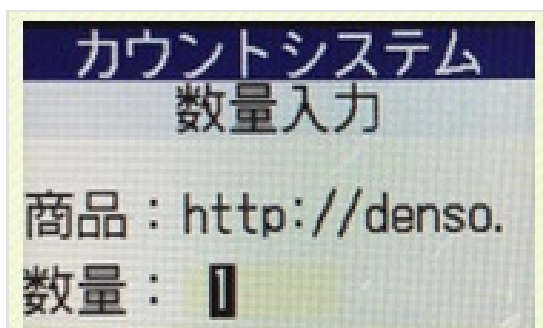


読み取ったバーコードの商品名が表示されます。数量の欄に移りますので、数量を「1」以外にする場合は、数字キーで数字を入力してください。

「1」のままとする、もしくは数字を入力した後は「ENT」ボタンを押します。

※商品名の表示は、事前に商品マスタを登録する必要があります。

5 2次元コードを読み取るとこのようになります



読み取った2次元コードのサイト名が表示されます。数量の欄に移りますので、数量を「1」以外にする場合は、数字キーで数字を入力してください。

「1」のままとする、もしくは数字を入力した後は「ENT」ボタンを押します。

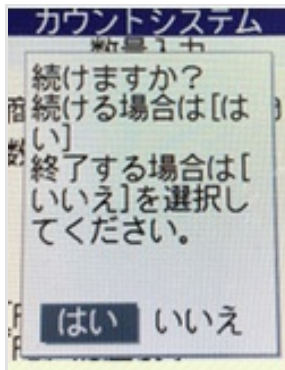
2次元コードは、数字以外も読み取れるため、下記のような文字列も可能です。

※商品名の表示は、事前に商品マスタを登録する必要があります。

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

16 Steps

6 「ENT」 ボタンを押した後は、下記の画面が表示されます



画面に従って選択をしてください。

7 「はい」の場合は左側、「いいえ」の場合は右側の画面に移ります



特に「終了する」という画面はありませんので、好きな画面で「PCと接続してデータを取り出す」ことができます。

8 パソコンで「CountSystem」プログラムを起動します。

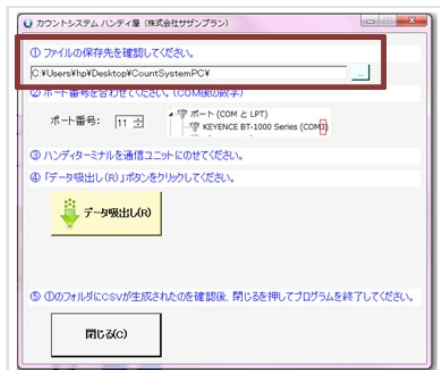


パソコン上にインストールした「CountSystem」プログラムを起動します。

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

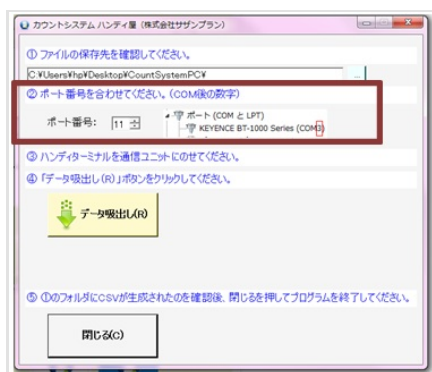
16 Steps

9 読み取ったデータをCSV出力する 手順①



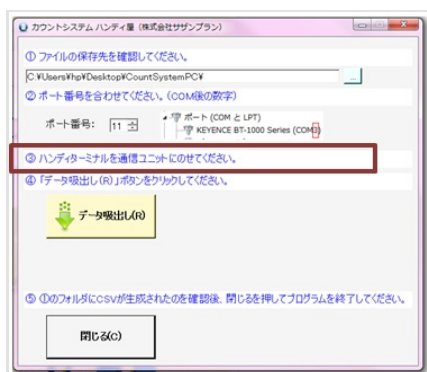
「① ファイルの保存先を確認してください」
好きな保存場所を選択してください。

10 読み取ったデータをCSV出力する 手順②



先ほど確認したポート番号に合わせましょう。
例では「11」ですが、PCにより異なります。
必ず今利用しているPCのポート番号を確認しましょう

11 読み取ったデータをCSV出力する 手順③



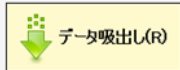
「③ ハンディターミナルを通信ユニットに
のせてください」
BT-1500をBT-UC10Uにのせましょう。
※どの画面状態でのせてもかまいません

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

16 Steps

12 読み取ったデータをCSV出力する 手順④

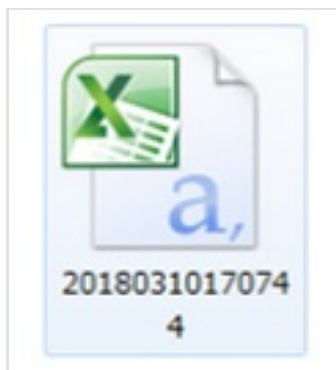
④「データ吸出し(R)」ボタンをクリックしてください。



ファイルを受信しました。

「④データ吸出し（R）ボタンをクリックしてください。」
クリックしましょう。成功するとメッセージが表示されます。

13 CSVファイルが、①にて指定したフォルダに保存されます。



CSVファイルを開きデータが反映されていることを確認してください。

14 ※ハンディターミナル側の画面

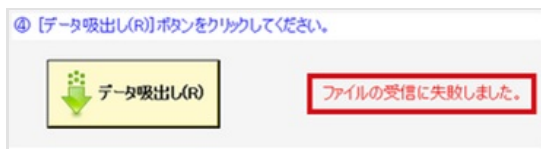


ハンディターミナル側では画像のような表示が連続し、最終的には初期画面に戻ります（ハンディターミナル内部のデータはこの時点で消える設定となっています。CSVにデータが記載されていますのでCSVをご利用ください）。

読み取りからCSV生成までの手順（簡易プログラム）

16 Steps

- 15 ※画像のような表示が出ると通信に失敗しています。ケースごとに確認しましょう。



- 【A】 吸出すべきデータがない
→ 何かバーコードを読み取ってみましょう。吸出し後は、吸出すべきデータはなくなります。
- 【B】 ポート番号が間違っている
→ ② を正しいポート番号に設定しましょう。
- 【C】 配線が間違っている
→ 各ケーブルの接続、本体と充電台の接触が悪い場合があります。
- 【D】 対応しているOSではない
→ PCのOSによっては、稀に通信できない場合があります。
別のPCでお試してください

16 その他注意点



※ Lボタン F1ボタン F2ボタンで動作する機能もありますが、こちらはサポート対象外となります。必要な場合は、ご自身の責任でお使いください。